

# 国内外の産業動物衛生情報

2010年1月～12月

年月日	国内	海外
2010.12.31		韓国 アヒル農場(天安市、約 10000 羽)、鶏農場(益山市、約 17000 羽)で高病原性鳥インフルエンザ(H5N1)発生。関連を含め 92000 羽殺処分・埋却
		韓国(泗水市)マガモから高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 検出)
2010.12.28		韓国(海南郡)トモエガモから高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 検出)
2010.12.27	鹿児島県出水市で死んだ絶滅危惧種「ナベヅル」12羽のうち新たに3羽が HPAI ウイルス(H5N1 型)に感染していた(環境省)。これで強毒性が判明したのは5羽	口蹄疫再発(台湾台南直轄市(O 型、豚))
2010.12.24	新潟県五泉市で鳥類の伝染病であるニューカッスル病が発生。同市営の公園で20日、飼育していたインコの42羽中16羽が死亡。市は感染拡大を予防するため、発生した公園で飼育するインコやチャボなどの殺処分を行う予定。市はインコにワクチン接種をしていなかった。県は今後、愛玩鶏の飼養者にワクチン接種の徹底を呼びかける。 (国内の学校施設などで動物を情操教育として飼育することは有用だと思えます。その動物の健康を維持するため、お近くの動物病院あるいは日本獣医師会に管理についてお問い合わせください。管理衛生などについて、情報をいただけたらと思います。)	
2010.12.23	国内最大のツルの飛来地・出水平野(鹿児島県出水市)において、死んだ野鳥が4羽増えて、計10羽になった。 簡易検査の結果、4羽のうちナベヅルと同様に絶滅危惧種のマナヅル1羽が、鳥インフルエンザの簡易検査で弱い陽性反応を示した。鳥取大学で、精査中。マナヅルは絶滅危惧種のため、同省では有職者らの指導を得ながら対応を検討する方針。	
2010.12.22	国内最大のツルの飛来地・出水平野(鹿児島県出水市)でナベヅル1羽の死骸から高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 亜型)が検出された。鳥取大学で確定診断中。 ナベヅルは国の天然記念物で絶滅危惧種。 半径10km 監視域に養鶏場116戸、計520万羽飼養	
2010.12.19	富山県高岡市の高岡古城公園動物園で死亡したコブハクチョウから分離されたウイルスは 1. 強毒タイプの H5 亜型の高病原性鳥インフルエンザウイルスであった。 2. 北海道稚内市大沼及び島根県安来市で分離されたウイルスと、極めて近縁であった。「(独)農研機構動物衛生研究」 <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html</a>	
2010.12.18	富山県高岡市の高岡古城公園動物園で死亡したコブハクチョウから分離されたウイルスは 1. 強毒タイプの H5 亜型の高病原性鳥インフルエンザ	

	ウイルスであった。 2. 北海道稚内市大沼及び島根県安来市で分離されたウイルスと、極めて近縁であった。「(独)農研機構動物衛生研究」 <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html</a>	
2010.12.10		韓国(瑞山市)ワシミズクから高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 検出)
2010.12.7		韓国(益山市)マガモから高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 検出)
2010.12.2	島根県安来市の養鶏場で発生した高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1)強毒タイプと確認され、ウイルス株は北海道の野鳥由来ウイルス株(10月)と類似。	
2010.12.1	島根県に専門家をつくる疫学調査チームを県に派遣	韓国にある84カ所の家畜市場が全面閉鎖
2010.11.30	島根県安来市の養鶏農場で飼養する採卵鶏約2万3000羽の殺処分開始。島根県内88カ所の養鶏農家で異常なし。	韓国の口蹄疫はO型(異常確認日は11/26と11/28)
2010.11.29	島根県において高病原性鳥インフルエンザの疑似患者が確認 高病原性鳥インフルエンザ(H5N1) <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/pdf/hpai.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/pdf/hpai.pdf</a> 安来市の養鶏農家(採卵鶏、2万羽飼養) <a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/101129_1.htm">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/101129_1.htm</a> <a href="http://www3.pref.shimane.jp/houdou/press.asp?pub_year=2010&amp;pub_month=11&amp;pub_day=29&amp;press_cd=FF9EC65B-37E7-4FFC-92B9-89AD2EB331BF">http://www3.pref.shimane.jp/houdou/press.asp?pub_year=2010&amp;pub_month=11&amp;pub_day=29&amp;press_cd=FF9EC65B-37E7-4FFC-92B9-89AD2EB331BF</a> <a href="http://www.maff.go.jp/aqs/pdf/h221129ai.pdf">http://www.maff.go.jp/aqs/pdf/h221129ai.pdf</a>	韓国南東部慶尚北道安東市、養豚農家2戸(各5,500頭、3,500頭飼養)、発生農家の飼養豚の殺処分、発生農家から半径3km以内に所在する偶蹄類家畜の予防的殺処分車両及び人等に関する移動制限等実施
2010.11.28	口蹄疫被害が拡大しているモンゴル政府にワクチン40万頭分を購入する資金を援助。援助額は1900万円。農水省と動物衛生研究所の専門家が今月中旬に現地入り。発生状況の把握やワクチン接種指導。ワクチン接種家畜は、予防的に殺処分することはせず経過観察	
2010.11.26	動物検疫所見学・説明会「ご存じですか？動物検疫」 <a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/johokan/101111.htm">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/johokan/101111.htm</a> ・日時:平成22年12月9日(木曜日)13時00分から16時20分まで(予定) ・場所:中部国際空港 ・参加申込の締切日:平成22年11月26日(金曜日)17時(必着) (応募者多数の場合は抽選)	
2010.11.25	農林水産省の対策検証委員会最終報告書 <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/kensyo_hokoku_sho.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/kensyo_hokoku_sho.pdf</a> 口蹄疫の疫学調査に係る中間取りまとめ公表 <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/ekigaku_matome.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/ekigaku_matome.pdf</a>	カナダ マニトバ州 家きん 弱毒タイプの鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)が確認。
2010.11.15		★デンマークの鳥インフルエンザの清浄性を確認し、同国産家きん肉などの輸入停止を解除。同国では2008年12月、弱毒タイプの鳥インフルエンザ(H7 亜型)が発生した。 ★ドイツで弱毒タイプの鳥インフルエンザ(H5N2 亜型)が確認された。同国から日本向けに輸出される家きん及び家きん肉等について輸入停止措置

2010.11.12	日本からシンガポール向けに輸出される宮崎県以外で飼養された牛及び豚に由来する肉については、平成22年10月12日付けで輸出が再開されていたが、平成22年11月12日付けで、宮崎県で飼養された牛及び豚に由来する肉についても輸出が再開された。	
2010.11.11	京都大学霊長類研究所で発生していたニホンザルの疾病(血小板減少が特徴→下記 2010.7.9.参照)の原因は、SRV-4(サルレトロウイルス4型)であった。(ニホンザル疾病対策第3者委員会委員長:吉川泰弘(北里大学・教授))	
2010.11.10	農水省の対策検証委員会、委員会終了後に会見し、宮崎県が県所有の種雄牛を特例的に助けたことについて、最終報告書に「今後一切特例は認めない」との趣旨を盛り込む方針	
2010.11.7		モンゴルで発生している口蹄疫が拡大し、11/7までに羊や山羊など 136万頭の家畜にワクチンを接種した。
2010.11.4	「宮崎県口蹄疫被害義援金」(10月末締切) 総額 34億 8680万円。	韓国、高病原性鳥インフルエンザ(H7N6)弱毒タイプ検出。全羅南道長城郡(アヒルなど 23,410羽)。発症なし。
2010.11.2	ニワトリのインフルエンザ感染の検査薬発売(富士レビオ)。12,000円(10検体)。15分で診断。(末吉意見-もっと安価に)	
2010.11.1	宮崎県児湯郡5町和牛の導入。 83農場 203頭 都農町 16農場・43頭 川南町 33農場・72頭 高鍋町 4農場・9頭 新富町 25農場・65頭 木城町 5農場・14頭	
2010.10.28	輸入手続保留を解除(カナダ) 手続の保留期間:10月10日～10月27日 輸出施設:BOUVRY EXPORTS CALGARY LTD.(Est.506) 対象品目:当該施設からのすべての品目(馬の肉及び臓器、豚の肉及び臓器並びにそれらを原料とするソーセージ、ハム及びベーコン)(参考) ・10月10日、カナダから到着した馬肉114箱(1,520kg)を検査したところ、バイソン肉と記載されたものが8箱(97.9kg)混入していることを確認。このため、輸出施設において適切な改善措置がとられたことが確認されるまでの間、当該施設で製造される馬肉及び豚肉等に対する輸入手続を保留。 ※ バイソン肉の輸入については、カナダとの間で家畜衛生条件が締結されておらず、日本への輸入が認められていない。 ・10月22日、カナダ政府から原因及び改善措置に関する調査報告書が提出。本報告書を精査した結果、再発防止を確保するための適切な改善措置がとられたことを確認できたことから、本日付けで、当該施設からの輸入手続の保留を解除。	
2010.10.26	輸入手続保留を解除(カナダ) 手続の保留期間:10月10日～10月27日 輸出施設:BOUVRY EXPORTS CALGARY LTD.(Est.506)	

	<p>対象品目:当該施設からのすべての品目 (馬の肉及び臓器、豚の肉及び臓器並びにそれらを原料とするソーセージ、ハム及びベーコン) (参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月10日、カナダから到着した馬肉114箱(1,520kg)を検査したところ、バイソン肉と記載されたものが8箱(97.9kg)混入していることを確認。このため、輸出施設において適切な改善措置がとられたことが確認されるまでの間、当該施設で製造される馬肉及び豚肉等に対する輸入手続きを保留。</li> <li>※ バyson肉の輸入については、カナダとの間で家畜衛生条件が締結されておらず、日本への輸入が認められていない。</li> <li>・10月22日、カナダ政府から原因及び改善措置に関する調査報告書が提出。本報告書を精査した結果、再発防止を確保するための適切な改善措置がとられたことを確認できたことから、本日付けで、当該施設からの輸入手続の保留を解除。</li> </ul>	
2010.10.2	観察牛、計 321 頭、抗体検査や目視検査の結果、異常なし	
2010.10.19	口蹄疫対策検証委員会の国と県の合同会議が開催された。口蹄疫の防疫措置の検証結果について意見交換した。	モンゴル、スフバートル県など東部地域で口蹄疫が拡大し、2 万頭以上発生の疑い
2010.10.15		韓国 弱毒タイプの鳥インフルエンザ (H7N7 亜型) が発生
2010.10.1	<p>カナダから到着した馬肉を検査したところ、バイソン肉と記載されたものが混入している。このため、輸出施設 (Est.506) において適切な改善措置がとられたことが確認されるまでの間、当該施設で製造される馬肉及び豚肉等に対する手続を保留</p> <p>日本に牛肉輸入の解禁や条件緩和を求めている国が13カ国に上っている。20カ月齢以下に限って輸入を求める月齢制限の緩和・撤廃を求める米国、カナダをはじめ、BSE のために輸入停止になった欧州連合 (EU) の一部の国が解禁を要請</p>	
2010.10.1	<p>動植物や微生物などを利用した製品開発で得た利益を配分する新たな国際ルートを話し合う生物多様条約第10回締約国会議 (COP10) の作業部会が、名古屋市で開催</p> <p>日本からシンガポール向けに輸出される牛肉及び豚肉の輸出が再開</p>	
2010.10.1	口蹄疫疫学調査チーム 第6回 検討会開催	
2010.10.8	宮崎県の民間の種雄牛6頭を口蹄疫ウイルス抗体検査結果、すべて陰性	
2010.10.6	農林水産省、宮崎県で発生した口蹄疫の終息から3ヶ月が過ぎたことを受け、OIEに「口蹄疫清浄国」復帰を申請	
2010.10.4	農水省と厚生労働省 カナダとBSE対策協議再開「牛肉輸入条件」	
2010.10.1	動物検疫所成田支所羽田空港出張所は動物検疫所羽田空港支所となった。(末吉考: 獣医職員の重点配備があったようだが、宮崎や鹿児島空港の動物検疫強化も必要。検疫探知犬の増数を)	

2010.9.30	宮崎県西都市牛の導入。	
2010.9.29	日本からアラブ首長国連邦向けに輸出される牛肉の輸出が再開	
2010.9.24	全国一斉の防疫演習実施。農水省が午前 10 時、口蹄疫が発生したと想定する農場を全都道府県に 1 戸ずつ指定通達。都道府県は殺処分した家畜の埋却地の選定や消毒ポイントの設置などの初動対応の計画書を作り、提出した。同省は計画書を調べて初動対応などの課題を 10 月中にまとめ、全国の畜産担当者を集めた会議で改善点を討議する。次回以降は冬場を実施し、参加団体を増やすなど、より実践的な演習にする。	
2010.9.22	宮崎県内にある 150 戸の農場の牛 2124 頭を調べた結果、すべて抗体陰性。	
2010.9.21	「観察牛」の 28 頭、すべて陰性(宮崎県発表)。8 月 31 日、県農業大学校など県の 3 施設、児湯地域家畜市場、日向市、西都市、新富町の 5 農場に導入。9 月 14 日に採血し、動物衛生研究所で検査。21 日、抗体検査の結果が陰性。	
2010.9.18		東南アジア デング熱が大流行の兆し。フィリピン・ラオスではすでに、感染者数、死者数とも昨年 1 年間の数を超えた。感染地域から日本に帰国した旅行者が国内で発症するケースも増え、国立感染症研究所によると、8 月末時点で感染者は 126 人。昨年の感染者数 92 人をすでに超えた。
2010.9.16	7-8 月の暑熱による家畜の死亡頭羽数「生産局 暑熱による畜産関係被害状況」 乳用牛 1747 頭 肉用牛 388 頭 豚 1125 頭 レイヤー 221 千羽 ブロイラー 531 千羽	
2010.9.14	米国産牛肉 輸入制限緩和などをめぐる日米両国政府の事務レベル協議開催。日本側から農水省、厚生労働省の担当課、室長、米側から農務省の動物検査、食品安全検査両局の幹部らが出席。2007 年 8 月以来協議を中断していた BSE 対策の両国の現状について意見交換。米側は BSE のチェック体制強化に関し、全米規模で農場や加工現場などの検査・監視システムを構築し、発生原因となる飼料を規制するなどの取り組みを説明。焦点の月齢条件をめ	
2010.9.10	米国産牛肉 日米間の技術的会合の開催 BSE をめぐる諸般の状況について意見交換を行う。 日時:平成 22 年 9 月 14 日～15 日、9 時 00 分開始 予定(現地時間) 場所:米国サンフランシスコ Hilton Garden Inn San Francisco Airport <a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100910.html">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100910.html</a>	中国 河南省、2007 年 5 月～9 月 8 日までに、ダニに刺された 557 人が発病し、18 人が死亡。発熱や血小板減少などが特徴
2010.9.9	口蹄疫の再発に備え、全国一斉の口蹄疫防疫演習を 24 日に行うと発表(農水省)。演習当日、口蹄疫が発生したと想定する農場を指定(農場名は非公表)。47 都道府県が、埋却地の選定や消毒ポイントの設置などの初動対応の計画書を作る。全国一斉の演習は初め	



	て。 <a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100909.html">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100909.html</a>	
2010.9.8	第5回 口蹄疫対策検証委員会 委員の意見交換、ヒアリングの結果を踏まえた議論の整理 <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/gaiyo5.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/gaiyo5.pdf</a>	
2010.9.6	OIE への日本の清浄ステータスの認定申請のため、 県内の牛飼養農場 150 戸を対象とし、抗体検査により 清浄性確認のためのサーベイランス(臨床検査及び血清 抗体検査)を実施する。サーベイランスは9月6日 から開始し、採材及び各検査を9月下旬までに終了 し、国において、10月上旬に OIE に対する認定申請 書を提出する予定。ワクチン接種で家畜を処分しなけ ればならなくなった日向市の牛農家 17 戸中 10 戸で、 計 12 頭の子牛が搬入された。	
2010.9.4	平成 22 年 5 月 14 日から西都市尾八重地区において 繋留する県有種雄牛 5 頭のうち 2 頭(福之国、秀菊 安)については家畜伝染病のリスク分散を行うため、高 原町に所在する宮崎県家畜改良事業団産肉能力検 定所へ移動。	
2010.9.3	2010 年 7 月 1 日～8 月 15 日の間、記録的な猛暑で 死亡あるいは廃用となった家畜は、乳用牛 959 頭(前 年比 36%増)、肉用牛 235 頭(前年比 9%減)、豚 657 頭(25%増)、レイヤー鶏 136,000 羽(240%増)、ブロイラ ー鶏 289,000 羽(70%増)であった。	
2010.9.2	えびの市の肉用牛肥育農場において確認された口蹄 疫全て陰性との連絡。これを受けて、一時中止となってい る宮崎県えびの市の乳用牛肥育農場(400 頭)で、9 月 1 日、牛 1 頭を発見し、都城家畜保健衛生所に通報。早期 確認できず、感染の有無を判断できなかった。 口蹄疫感染の可能性が否定できないとして、採取し て 2 日に開催を予定していた都城市の家畜市場の競り	体につ から 6 日 の粘膜が れなど口 蹄疫の 検査の結 果が一時
2010.9.1		インドネシア 高病原性鳥インフルエンザウイル ス H5N1 が家畜の豚から 7.4%という高い頻度で検出 された(東京大医科学研究所、米専門誌電子版に 発表)。2005～09 年に、インドネシアの 23 の養豚場 や食肉処理場で健康な豚 702 頭から鼻のぬぐい液 や血液を採取。52 頭から H5N1 が検出された。
2010.8.31	第 4 回口蹄疫対策検証委員会を開催(農林水産省) <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/gijigaiyo4.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fm/pdf/gijigaiyo4.pdf</a> 宮崎県は、発生農場などの一部を対象に試験的に飼 育する「観察牛」を導入した。	
2010.8.29	宮崎県高千穂町で、約 4 カ月ぶりに家畜の競りが再 開。参加者は多かったが、価格は低めだった。	
2010.8.28	合同慰霊祭、「新生! みやざきの畜産 総決起大会」、 研修会 於：宮崎市民文化ホール	ロシアで口蹄疫発生(O 型)
2010.8.27	口蹄疫終息宣 言 <a href="http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000145421.pdf">http://www.pref.miyazaki.lg.jp/parts/000145421.pdf</a>	
2010.8.25	第 1 回宮崎県口蹄疫対策検証委員会開催 口蹄疫発生農場及びワクチン接種農場における家畜 の再導入への取組みについて	米国 サルモネラ汚染 5 億 5000 万個自主回収

	<a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100825.html">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100825.html</a> 表 <a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/pdf/100825-01.pdf">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/pdf/100825-01.pdf</a>	
2010.8.24	口蹄疫の疫学調査に係る中間的整理公表 <a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/pdf/100825-1-01.pdf">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/pdf/100825-1-01.pdf</a> <a href="http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100823.html">http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/100823.html</a> 「食料・農業・農村政策審議会 家畜衛生部会 第15回 牛豚等疾病小委員会 及び 口蹄疫疫学調査チーム 第5回 検討会」の合同開催 <a href="http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/eisei/pdf/syoui15.pdf">http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/eisei/pdf/syoui15.pdf</a> 第3回 口蹄疫対策検証委員会開催 <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmdd/pdf/gaiyo3.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmdd/pdf/gaiyo3.pdf</a>	
2010.8.22	中国人向けビザさらに緩和? 前原国交相(日中韓の人口交流の拡大などを盛り込んだ共同宣言に調印。前原誠司国交相、中国浙江省杭州市) 日本と中国、韓国の観光担当相会合のため中国を訪れている前原誠司国土交通相は22日の共同記者会見で、7月に要件を緩和した中国人向け個人観光査証(ビザ)について「さらなる見直しも不可欠だ」と述べ、今後1年間で効果を検証した上で、一段の要件緩和を検討する考えを表明した。観光庁によると、個人旅行が盛んな台湾や香港からの訪日リピーター率は約7割に上るのに対し、中国人のリピーター率は約1割にとどまっている。中国人が旅行しやすい環境を整えることが、観光立国推進に向けた課題となっている。(末吉私見：国際交流は良いことだが、動物疾病防疫体制をさらに厳しくする必要がある。) 	
2010.8.19	第2回口蹄疫対策検証委員会の概要： <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmdd/pdf/gaiyo2.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmdd/pdf/gaiyo2.pdf</a>	米国 CDC はサルモネラ汚染の疑いのある卵の回収命令。合計 3 億 8,400 万個リコール。患者数報告は数百人。通常サルモネラ感染の場合実際の感染者数は報告数の 30 倍といわれている。
2010.8.15	口蹄疫や鳥インフルエンザなどに対応する公務員獣医師の確保に、各自治体が独自対策。全国の獣医師数は約 3 万 5000 人(2008 年、日本獣医師会)。うち公務員獣医師は 8950 人で、1998 年の 9294 人から 4% 減。小動物診療にあたる獣医師は 8422 人から 1 万 3027 人に増えた。新卒獣医師の約 40%が小動物診療に進むのに対し、公務員になるのは 15%(農林水産省のアンケート)。報酬など待遇面で不利な公務員は不人気。 例) 和歌山県は受験年齢の上限を 39 歳に引き上げたが、この 10 年間、ほとんどの年で募集定員を満たせず。 例) 愛媛県は、35 歳に引き上げ平均 1 万 6500 円を月給に上乗せする手当を設けた。 例) 青森県は、県勤務を条件に、獣医学を学ぶ全国の大学 5, 6 年生を対象に月額で上限 10 万円(私立大は 12 万円)を給付する奨学金制度を導入。	インドネシア バリ島で狂犬病が拡大している。2008 年 11 月以降の死者は 78 人に達し、9 月、島内の犬にワクチンを接種開始する。バリ島に約 60 万匹の犬がおり、うち約 76%が野犬。今年は 7 月までに、人が犬にかまれたケースは約 3 万 450 件と昨年の約 2 万 4000 件から急増。
2010.8.10		新型インフルエンザに関する緊急委員会(WHO)。「世界的大流行(パンデミック)」(フェーズ 6)→終結→「ポスト・パンデミック期」へ移行勧告の可能性高い。

2010.8.9	宮崎県内全て(牛 7,608 戸、豚 468 戸、計 8,076 戸)の牛と豚の清浄性確認検査終了。	
2010.8.5	第1回口蹄疫対策検証委員会開催 催： <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/index.html">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/index.html</a> 口蹄疫対策検証委員会(獣医学者、マスコミ関係者、弁護士ら)開催。今年発生した口蹄疫の対応で、国、県、地方自治体による防疫措置を検証。早急にまとめられた報告書を元に、家畜伝染病予防法改正案を提出予定。	
2010.8.3	口蹄疫の終息を受けた地域復興のための基金を「設置する方向で検討する」(農林水産相)。	
2010.7.28		英国 ノース・ヨークシャー州で、鳥インフルエンザ(H5亜型)の抗体検査で陽性確認
2010.7.27	宮崎県の移動制限解除	
2010.7.23	宮崎市を中心に設定されている移動制限区域において、7月16日以降実施していた移動制限区域内の牛・豚等飼養農家全戸に対する清浄性確認のための検査(抗体検査及び臨床検査)の結果、本日までに、当該地域の清浄性が確認された。 「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」のうち「緊急対応型調査研究」: 口蹄疫防疫措置終了後の農場内留置家畜排泄物のリスク評価およびリスク低減技術の開発『(独)農業・食品産業技術総合研究機構(動物衛生研究所、畜産草地研究所)、(国)宮崎大学』 口蹄疫疫学調査チーム第4回検討会概要 <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/pdf/kentou4.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/pdf/kentou4.pdf</a>	
2010.7.22	宮崎県は、目視による全戸清浄検査開始。8/11まで。7700戸。	
2010.7.20	口蹄疫疫学調査チーム 現地調査 山田農相：第三者口蹄疫委員会を立ち上げ。獣医学、幅広い分野の有識者らで構成。近日中に初会合開催予定。	
2010.7.19	口蹄疫疫学調査チーム 現地調査	
2010.7.18	ワクチンを接種していない家畜の処分及び防疫措置が本日終了したため、ワクチン接種を行っていない農家を中心として継続されていた半径10kmの移動制限区域については、7月18日午前0時に解除。	
2010.7.16	児湯地域を中心としたワクチン接種地域の移動制限及び搬出制限区域(ただし、宮崎市の発生を中心とした移動、搬出制限区域と重複する地域を除く)については、6月12日に発生した288例目を最後に発生が認められず、疑似患畜(6月24日)及びワクチン接種畜の殺処分が終了し、さらに、たい肥等の封じ込めや畜舎の清掃消毒が完了したことを家畜防疫員が確認したため、7月16日午前0時をもって解除する。(しかしながら、ワクチン接種を行っていない農家において、目視検査で飼養牛の異常が認められないものの、抗体検査等が実施されておらず、清浄性が確認されていないことから、当該農場を中心とした半径10kmの区域については引き続き移動制限区域のままとなる。)	
2010.7.11	農水省：口蹄疫簡易検査キット(2~3hrs, スウェーデン製、感度に課題あり)導入方針	



2010.7.9	京都大霊長類研究所(愛知県犬山市)で飼育されていたニホンザル44匹が原因不明の疾病で死亡(2001年～現在)。死亡サルは臓器や鼻の粘膜から出血し、血便もみられ、貧血症状(血小板、白血球、赤血球数減少、死亡時には血小板数はほぼゼロ)。原因不明、治療法ない。他の種類のサルや職員への感染はない。同研究所では約700匹を飼育。	米国 FDA が鶏卵サルモネラ汚染を防止する新しい規則を発令。雌鶏 3,000 羽以上を飼育する全ての鶏卵農家が対象。サルモネラモニターしている業者からの鶏購入、養鶏場での定期的なサルモネラ菌検査の実施、産卵後 36 時間以内の出荷と摂氏 7.2 度以下の冷蔵保存の義務化、など。 <a href="http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm218461.htm">http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm218461.htm</a> 上記により、毎年米国で 79,000 人の発症と 30 人の死亡をなくすことが出来る(FDA 発表)。
2010.7.8	国富町 移動制限解除	韓国家畜衛生当局より、日本からの偶蹄類動物に由来する原皮について受入れ可能(4月20日以来)
2010.7.7	山田農相会見(7/6): ①農水省緊急支援チーム構想(口蹄疫、動物衛生研究所、家畜改良センター) ②移動式レンダリング車(牛 100 頭/日)の整備方針(2011 年度)	タイ家畜衛生当局より、日本からの偶蹄類動物に由来する原皮について受入れ可能(4月20日以来)
2010.7.4	292 例目、宮崎市、肉用繁殖牛 16 頭、臨床症状 1 頭+(PCR+)、285 例目から 800m(ワクチン未接種区域)	
2010.7.3	日向市 移動制限解除	
2010.7.2	都城市 移動制限解除	韓国から日本向けに輸出される偶蹄類の動物の肉等の加熱処理施設が指定。
2010.6.30	ワクチン接種家畜殺処分・と体埋却完了	米国 6 月報道。野生動物等で確認されたのは、12 件(アライグマ 4、スカンク 1、キツネ 1、ネコ 6)ヒトかペットが暴露した。
2010.6.29	都城市 再検査 1 例結果 陰性 都城市 分離ウイルス 血清型 O 型→一例目の都農株とほぼ同一	
2010.6.28	西都市・国富町・宮崎市の清浄性確認検査開始 発生農場の消毒完了	
2010.6.26	都城市・日向市の清浄性確認検査開始 半径 3~10km 圏 目視検査	韓国防疫体制原案: ①畜産農家に免許制導入②家畜取引業者に申告制を導入③家畜の登録対象を拡大④畜産農家が外国人を雇用する際には申告を義務化⑤畜産農場に出入りする全ての車輛、関係者の消毒、記録管理の義務化
2010.6.24	第 3 回口蹄疫疫学調査チーム検討会(農場での衛生管理に詳しい臨床獣医師を加えて現地調査チーム組織新編 成) <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/pdf/ekigaku3.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/pdf/ekigaku3.pdf</a> 口蹄疫防疫措置実施マニュアル <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/pdf/fmd_manual.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/pdf/fmd_manual.pdf</a> 疑似患畜(199,293 頭)全て殺処分・埋却完了	
2010.6.22	都城市・日向市の清浄性確認検査開始~6/24 獣医師約 40 人(14 班) 半径 3km 圏内 96 農場 1720 頭 豚の疑似患畜の殺処分終了 未処分牛(高鍋町 3 農場 5200 頭、西都市 1 農場 1070 頭)	
2010.6.21	川南町内疑似患畜(14 万 5 千頭)の殺処分終了。 西都市と高鍋町に約 8400 頭残 ワクチン接種家畜(4 万 9 千頭)の処分を急ぐ。	タイ 2010 年 1 月から 5 か月間に狂犬病で死亡したのは、7 省で 13 人。このうち 12 人は飼い犬にかまれ、1 人は野良猫にかまれた。(NNT, Public Relations Department、21 Jun 2010)

		<a href="http://thainews.prd.go.th/en/news.php?id=255306210021">http://thainews.prd.go.th/en/news.php?id=255306210021</a>
2010.6.19	6.18-19 発生合計頭数は、199,284 頭(牛 37,093 頭、豚 162,174 頭、山羊 9 頭、羊 8 頭) 291 例目、宮崎市、肉用牛肥育 38 頭、臨床症状+(PCR1 頭+)、285 例目から 1500m(ワクチン未接種区域)	韓国、4 段階にある危機基準を一番下のレベルに引き下げ、家畜の移動制限を全土解除
2010.6.16-17	290 例目、国富町、肉用牛肥育 234 頭、臨床症状+(PCR3 頭+)、285 例目から 4500m(ワクチン未接種区域)	
2010.6.15	発生合計頭数は、199,012 頭(牛 36,821 頭、豚 162,174 頭、山羊 9 頭、羊 8 頭) 280 例目(都城市)周辺の 11 農場の検体について、遺伝子検査(PCR 検査)及び抗体検査(ELISA)全て陰性	
2010.6.14	発生合計頭数は、197,718 頭(牛 36,821 頭、豚 160,880 頭、山羊 9 頭、羊 8 頭) 菅総理、「余るほど、獣医師と自衛隊を送る。6 月 20 日までに疑似患者の処分を終えること」 289 例目、西都市、肉用牛肥育 33 頭、臨床症状+(PCR1 頭+)、283 例目から 500m(ワクチン未接種区域)	
2010.6.13	西都市尾八重で飼養されているの種雄牛 5 頭について、抗体検査(6/10 採材:ELISA)で陰性、また、10km 圏内の 2 戸の牛飼養農家の臨床検査でも異常がないことを確認。当該農場を中心に設定されている移動制限区域においては、171 例目(5/22 日確認)の殺処分が完了した 5/22 日から、新たな疑い事例は発生なし。このため、本日 0 時をもって、移動制限区域を解除。 大分県知事・熊本県知事・鹿児島県知事からの申請に基づき、車両等の消毒の義務を課す必要がある地域として、大分県全域・熊本県全域・鹿児島県全域を指定 「第 14 回牛豚等疾病小委員会」の開催	
2010.6.12	菅首相 宮崎県現地訪問 288 例目、新富町、養豚 921 頭(関連農場 2383 頭)、PCR1 頭+、169 例目から 1000m(5/23 ワクチン接種)	
2010.6.11	287 例目、西都市、肉用牛一貫 1351 頭(関連 1070 頭)、臨床症状+、253 例目から 1500m(5/24 ワクチン接種) 286 例目、川南町、肉用牛繁殖 74 頭)、臨床症状+、277 例目から 150m(6/8 ワクチン接種)	ロシア、H5N1、野鳥 367 羽死亡
2010.6.10	宮崎県対策本部長 篠原孝副大臣 宮崎入り 発生合計頭数は、197,685 頭(牛 36,788 頭、豚 160,880 頭、山羊 9 頭、羊 8 頭)。 285 例目、宮崎市、養豚 1325 頭、臨床症状+(PCR3 頭+)、1 例目から 3550m(ワクチン未接種区域) 284 例目、日向市、肉用牛肥育 349 頭、臨床症状+(PCR5 頭+)、1 例目から 1550m(ワクチン未接種区域) 283 例目、西都市、肉用牛肥育 550 頭、臨床症状+(PCR3 頭+)、146 例目から 7500m(ワクチン未接種区域) 282 例目、養豚 595、牛 32 頭、臨床症状+、261 例目から 300m(5/24 ワクチン接種) 281 例目、木城町、養豚 1760 頭、臨床症状+、115 例目から 450m(5/23 ワクチン接種)	

2010.6.9	280 例目、都城市高崎町、肉用牛肥育経営 肥育牛 250 頭、臨床症状+PCR3 頭+、○○○例目から ○○○m(ワクチン未接種区域)	
2010.6.8	派遣人員(6月8日まで、延べ 13,329 名) 合計疑似患畜頭数、185,999 頭 (牛 33,111 頭、豚 152,871 頭、山羊 9 頭、羊 8 頭) 279 例目、高鍋町、肉用牛 332 頭、臨床症状+、130 例目から 1000m(5/24 ワクチン接種) 278 目、川南町、養豚(肥育)1309 頭、2 頭 PCR+、116 例目から 400m(5/23 ワクチン接種) 277 例目、川南町、養豚 1605 頭(関連農場 1000 頭)、1 頭 PCR+、267 例目から 450m(5/25 ワクチン接種)	
2010.6.7	第 2 回口蹄疫疫学調査チームによる現地調査および検討会 276 例目、川南町、肉用牛繁殖 50 頭、1 頭 PCR+、194 例目から 150m(5/25 ワクチン接種)	フィリピンが日本の偶蹄類動物由来の原皮の輸入を再開(4月20日以来)
2010.6.5	経過観察中の宮崎県家畜改良事業団の種雄牛 5 頭、疑似患畜合計頭数 181,438 頭(牛 32,729 頭、豚 148,275 例目、都農町、肉用牛繁殖 25 頭、臨床症状+、2 ワクチン接種家畜の殺処分開始 予定家畜処分全数 27 万頭。 終了数 18 万頭(78%) 274 例目、木城町、養豚 655 頭、臨床症状+、172 例 273 例目、新富町、肉用牛肥育 372 頭、臨床症状+、 272 例目、川南町、肉用牛繁殖 63 頭、1 頭 PCR+、1	
2010.6.4	271 例目、新富町、肉用牛肥育 43 頭、臨床症状+、183 例目から 150m(5/29 ワクチン接種) 270 例目、川南町、養豚 276 頭、3 頭 PCR+、116 例目から 1000m(5/24 ワクチン接種)	
2010.6.3	269 例目、都農町、肉用牛繁殖 80 頭、臨床症状+、262 例目から 250m(5/26 ワクチン接種) 268 例目、川南町、養豚 616 頭、臨床症状+、107 例目から 300m(5/24 ワクチン接種) 267 例目、川南町、肉用牛繁殖 12 頭、臨床症状+、180 例目から 3500m(5/22 ワクチン接種) 266 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 62 頭(関連農場 5 頭)、臨床症状+、172 例目から 1500m(5/25 ワクチン接種) 265 例目、新富町、肉用牛繁殖 22 頭、PCR1 頭+、256 例目から 1000m(5/25 ワクチン接種)	
2010.6.2	264 例目、都農町、肉用牛繁殖 6 頭、臨床症状+、212 例目から 750m(5/28 ワクチン接種) 263 例目、川南町、肉用牛繁殖 41 頭、臨床症状+、41 例目から 150m(5/26 ワクチン接種) 262 例目、都農町、肉用牛繁殖 82 頭、臨床症状+、182 例目から 400m(5/26 ワクチン接種) 261 例目、川南町、養豚 597 頭、臨床症状+、3 例目から 300m(5/24 ワクチン接種) 260 例目、川南町、肉用牛繁殖 26 頭、臨床症状+、102 例目から 100m(5/25 ワクチン接種) 259 例目、川南町、養豚 790 頭、臨床症状+、125 例目から 300m(5/24 ワクチン接種) 258 例目、川南町、養豚 4815 頭、臨床症状+、208 例目から 400m(5/23 ワクチン接種) 257 例目、都農町、肉用牛繁殖 119 頭、臨床症状+、	

: ELISA

	<p>243 例目から 250m(5/28 ワクチン接種)  256 例目、高鍋町、養豚 2014 頭、臨床症状+、228 例目から 1000m(5/22 ワクチン接種)  255 例目、都農町、養豚 775 頭、臨床症状+、203 例目から 550m(5/25 ワクチン接種)  254 例目、川南町、酪農・肉用牛複合 56 頭、臨床症状+、52 例目から 200m(5/25 ワクチン接種)</p>	
2010.6.1	<p>発生地から半径 10 キロ圏内では、口蹄疫の判定方法を臨床検査に変更。  253 例目、西都市、肉用牛肥育 779 頭、1 頭 PCR+、235 例目から 50m(5/24 ワクチン接種)  252 例目、川南町、肉用牛一貫 291 頭、3 頭 PCR+、15 例目から 200m(5/25 ワクチン接種)  251 例目、都農町、肉用牛繁殖 26 頭、2 頭 PCR+、230 例目から 1500m(5/26 ワクチン接種)  250 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 43 頭、2 頭 PCR+、130 例目から 550m(5/24 ワクチン接種)  249 例目、都農町、肉用牛繁殖 5 頭、2 頭 PCR+、247 例目から 1000m(5/26 ワクチン接種)  248 例目、都農町、養豚 4680 頭、3 頭 PCR+、182 例目から 1500m(5/25 ワクチン接種)</p>	韓国 忠清道の韓牛で口蹄疫発生(6.8.に清浄化宣言予定だった。)
2010.5.31	<p>宮崎県都農町食肉処理場操業再開。搬出制限区域(発生農場から半径 10~20 キロ圏)の牛や豚を食肉処理し、感染拡大を防ぐ「緩衝地帯」をつくるための特例措置。当面、出荷適期を迎えている牛(29 ヶ月齢以上)約 1000 頭と豚(6 ヶ月齢以上)約 2000 頭。2 週間以内の出荷を目指す。  えびの市発生農場半径 3~10km 以内+疫学関連農場牛・豚飼養農場全戸臨床検査(5/31~6/4)  247 例目、都農町、肉用牛繁殖 12 頭、3 頭 PCR+、136 例目から 400m(5/26 ワクチン接種)  246 例目、川南町、肉用牛繁殖 55 頭(関連①11 頭、関連②2 頭)、3 頭 PCR+、114 例目から 100m(5/24 ワクチン接種)  245 例目、都農町、肉用牛繁殖 12 頭、1 頭 PCR+、48 例目から 500m(5/26 ワクチン接種)  244 例目、都農町、肉用牛繁殖 28 頭、1 頭 PCR+、212 例目から 100m(5/26 ワクチン接種)  243 例目、都農町、肉用牛繁殖 253 頭、1 頭 PCR+、72 例目から 150m(5/26 ワクチン接種)  242 例目、都農町、肉用牛繁殖 253 頭、1 頭 PCR+、15 例目から 500m(5/26 ワクチン接種)  241 例目、川南町、肉用牛繁殖 23 頭、3 頭 PCR+、79 例目から 350m(5/25 ワクチン接種)  240 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 43 頭、1 頭 PCR+、177 例目から 350m(5/24 ワクチン接種)  239 例目、川南町、酪農 39 頭、2 頭 PCR+、225 例目から 150m(5/25 ワクチン接種)</p>	
2010.5.30	<p>238 例目、都農町、肉用牛繁殖 54 頭(関連農場 11 頭)、3 頭 PCR+、153 例目から 250m(5/26 ワクチン接種)  237 例目、新富町、肉用牛繁殖 35 頭、1 頭 PCR+、169 例目から 1500m(5/25 ワクチン接種)  236 例目、都農町、肉用牛繁殖 4 頭、1 頭 PCR+、220 例目から 200m(5/26 ワクチン接種)  235 例目、都農町、肉用牛繁殖 4 頭、1 頭 PCR+、220 例目から 200m(5/24 ワクチン接種)</p>	

	<p>234 例目、川南町、肉用牛繁殖 3 頭、1 頭 PCR+、103 例目から 500m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>233 例目、新富町、肉用牛肥育 353 頭、1 頭 PCR+、131 例目から 400m(5/24 ワクチン接種)</p>	
2010.5.29	<p>疑似患畜合計 162,159 頭(牛 28,669 頭、豚 133,474 頭、山羊 8 頭、羊 8 頭)</p> <p>えびの市の清浄化確認検査→抗体検査→全件陰性 獣医師動員数 のべ 8770 名</p> <p>232 例目、川南町、肉用牛繁殖 48 頭、3 頭 PCR+、193 例目から 100m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>231 例目、川南町、肉用牛繁殖 46 頭、3 頭 PCR+、209 例目から 300m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>230 例目、都農町、肉用牛繁殖 34 頭、1 頭 PCR+、138 例目から 150m(5/26 ワクチン接種)</p> <p>229 例目、高鍋町、肉用牛一貫 620 頭、3 頭 PCR+、222 例目から 1000m(5/23 ワクチン接種)</p> <p>228 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 1018 頭、3 頭 PCR+、130 例目から 250m(5/23 ワクチン接種)</p> <p>227 例目、高鍋町、肉用牛一貫 3957 頭、1 頭 PCR+、222 例目から 800m(5/23 ワクチン接種)</p> <p>226 例目、川南町、養豚 279 頭・肉用牛繁殖 8 頭、3 頭 PCR+、121 例目から 150m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>225 例目、川南町、養豚 576 頭、2 頭 PCR+、88 例目から 150m(5/25 ワクチン接種)</p>	
2010.5.28	<p>224 例目、川南町、酪農 18 頭、1 頭 PCR+、121 例目から 150m(5/25 ワクチン接種)</p> <p>223 例目、川南町、肉用牛繁殖 45 頭、2 頭 PCR+、125 例目から 150m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>222 例目、高鍋町、養豚 2716 頭、3 頭 PCR+、188 例目から 1500m(5/22 ワクチン接種)</p> <p>口蹄疫対策特別措置法、参院本会議で可決・成立</p>	
2010.5.27	<p>221 例目、川南町、肉用牛繁殖 21 頭、1 頭 PCR+、133 例目から 400m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>220 例目、都農町、肉用牛繁殖 10 頭、1 頭 PCR+、136 例目から 750m(5/26 ワクチン接種)が疑い→検査→PCR+</p> <p>219 例目、川南町、肉用牛繁殖 15 頭、1 頭 PCR+、102 例目から 350m</p>	
2010.5.26	<p>ワクチン接種(99%, 996 戸/1020 戸) 終了。移動制限区域内のワクチン接種対象家畜(牛 45,926 頭、豚 79,603 頭)</p> <p>218 例目、川南町、酪農 16 頭、2 頭 PCR+、74 例目から 100m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>217 例目、川南町、肉用牛繁殖 26 頭、3 頭 PCR+、209 例目から 250m</p> <p>216 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 2317 頭、3 頭 PCR+、157 例目から 450m(5/23 ワクチン接種)</p> <p>215 例目、川南町、養豚肥育 80 頭、3 頭 PCR+、160 例目から 200m</p> <p>214 例目、川南町、養豚 1139 頭、2 頭 PCR+、102 例目から 400m(5/24 ワクチン接種)</p> <p>213 例目、高鍋町、養豚 525 頭、3 頭 PCR+、124 例目から 100m(5/23 ワクチン接種)</p> <p>212 例目、都農町、肉用牛繁殖 118 頭(関連農場 114 頭)、2 頭 PCR+、203 例目から 200m</p> <p>211 例目、川南町、肉用牛繁殖 32 頭、3 頭 PCR+、207 例目から 200m</p>	



	210 例目、川南町、酪農 96 頭、1 頭 PCR+、76 例目から 100m	
2010.5.25	<p>209 例目、川南町、肉用牛繁殖 7 頭、1 頭 PCR+、180 例目から 350m</p> <p>208 例目、川南町、肉用牛肥育 157 頭、2 頭 PCR+、128 例目から 550m</p> <p>207 例目、川南町、肉用牛繁殖 14 頭、1 頭 PCR+、27 例目から 300m</p> <p>206 例目、川南町、肉用牛繁殖 9 頭、1 頭 PCR+、181 例目から 450m</p> <p>205 例目、木城町、養豚 2119 頭、3 頭 PCR+、115 例目から 2000m</p> <p>204 例目、川南町、肉用牛繁殖 40 頭、2 頭 PCR+、128 例目から 250m</p> <p>203 例目、都農町、肉用牛繁殖 59 頭、1 頭 PCR+、182 例目から 250m</p> <p>202 例目、新富町、肉用牛繁殖 107 頭、3 頭 PCR+、200 例目から 100m</p> <p>201 例目、川南町、肉用牛繁殖 24 頭、2 頭 PCR+、65 例目から 500m</p> <p>えびの市発生農場半径 3km 以内+疫学関連農場牛飼養農場全戸(169 戸)抗体検査 3 日目</p> <p>えびの市発生農場半径 3km 以内+疫学関連農場豚飼養農場全戸(〇〇戸)臨床検査 3 日目</p>	
2010.5.24	<p>200 例目、新富町、肉用牛肥育 179 頭、1 頭 PCR+、168 例目から 300m</p> <p>199 例目、川南町、肉用牛一貫 26 頭、2 頭 PCR+、160 例目から 300m</p> <p>198 例目、川南町、肉用牛繁殖 18 頭、3 頭 PCR+、57 例目から 200m</p> <p>197 例目、高鍋町(高鍋農高)、334 頭(牛 53 頭、豚 281 頭)、1 頭 PCR+、158 例目から 1000m</p> <p>196 例目、都農町、肉用牛繁殖 4 頭、2 頭 PCR+、173 例目から 650m</p> <p>195 例目、新富町、肉用牛肥育 441 頭、3 頭 PCR+、184 例目から 300m</p> <p>194 例目、川南町、肉用牛繁殖 4 頭(関連農場 18 頭)、1 頭 PCR+、110 例目から 150m</p> <p>えびの市発生農場半径 3km 以内+疫学関連農場牛飼養農場全戸(169 戸)抗体検査 2 日目</p> <p>えびの市発生農場半径 3km 以内+疫学関連農場豚飼養農場全戸(〇〇戸)臨床検査 2 日目</p>	
2010.5.23	<p>193 例目、川南町、肉用牛繁殖 24 頭、1 頭 PCR+、145 例目から 150m</p> <p>192 例目、川南町、養豚 1065 頭、3 頭 PCR+、42 例目から 450m</p> <p>191 例目、川南町、養豚 5192 頭、1 頭 PCR+、126 例目から 250m</p> <p>190 例目、川南町、養豚 355、3 頭 PCR+、102 例目から 400m</p> <p>189 例目、川南町、養豚 321 頭、3 頭 PCR+、160 例目から 300m</p> <p>188 例目、西都市、肉用牛肥育 165 頭、3 頭 PCR+、166 例目から 550m</p> <p>187 例目、川南町、肉用牛繁殖 6 頭、2 頭 PCR+、93 例目から 150m</p> <p>186 例目、川南町、山羊 2 頭、1 頭 PCR+、44 例目か</p>	

	<p>ら 500m  185 例目、川南町、肉用牛繁殖 15 頭、2 頭 PCR+、  129 例目から 300m  184 例目、新富町、肉用牛一貫 84 頭、1 頭 PCR+、  141 例目から 150m  183 例目、新富町、肉用牛肥育 255 頭、2 頭 PCR+、  146 例目から 850m  182 例目、都農町、肥育牛一貫 242 頭(関連農場 44  頭)、3 頭 PCR+、48 例目から 700m  えびの市発生農場半径 3km 以内+疫学関連農場牛  飼養農場全戸(169 戸) 抗体検査開始  えびの市発生農場半径 3km 以内+疫学関連農場豚  飼養農場全戸(○○戸)臨床検査開始</p>	
2010.5.22	<p>181 例目、川南町、養豚 936 頭、3 頭 PCR+、145 例  目から 350m  180 例目、川南町、肉用牛繁殖 60 頭、3 頭 PCR+、  66 例目から 700m  179 例目、川南町、肉用牛繁殖 22 頭、1 頭 PCR+、  113 例目から 100m  178 例目、高鍋町、養豚 1685 頭、3 頭 PCR+、124  例目から 200m  177 例目、高鍋町、肉用牛肥育 118 頭、2 頭 PCR+、  118 例目から 2000m  176 例目、川南町、肉用牛繁殖 66 頭、1 頭 PCR+、  122 例目から 850m  175 例目、川南町、肉用牛繁殖 4 頭、2PCR+、167  例目から 300m  174 例目、川南町、肉用牛繁殖 32 頭、2 頭 PCR+、  105 例目から 250m  173 例目、川南町、肉用牛繁殖 62 頭、2 頭 PCR+、  151 例目から 600m  172 例目、木城町、養豚 269 頭、2 頭 PCR+、126 例  目から 1000m  ワクチン接種開始</p>	
2010.5.21	<p>171 例目、西都市、スーパー種雄牛 6 頭、1 頭(忠富  士)PCR+(5/13 高鍋から移動)  特別追加対策措置  1. 肉豚の出荷遅延対策に関し、枝肉重量が 80kg から  85kg のものについても、助成対象として追加  2. 開催を中止する家畜市場の増加に伴う影響への対  応として、家畜疾病経営維持資金等における対象区  域を、九州・沖縄各県にまで拡大  3. 移動制限の長期化に伴う影響に対する対応として、  子牛生産者補給金の飼養開始月齢等の要件を更に  緩和  170 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 115 頭、2 頭 PCR+、  119 例目から 2000m  169 例目、新富町、肉用牛繁殖 26 頭、1 頭 PCR+、  119 例目から 1500m  168 例目、新富町、肉用牛肥育 165 頭、3 頭 PCR+、  130 例目から 1000m  167 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 9 頭、1 頭 PCR+、  111 例目から 400m  166 例目、西都市、肉用牛肥育 200 頭、2 頭 PCR+、  119 例目から 7000m  165 例目、川南町、肉用牛繁殖 54 頭、1 頭 PCR+、  132 例目から 100m  164 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 3 頭、2 頭 PCR+、</p>	<p>韓国 高病原性で弱毒タイプの鳥インフルエンザ  (H7N7 亜型)の発生</p>

	<p>158 例目から 2000m  163 例目、木城町、肉用牛一貫 884 頭、3 頭 PCR+、  126 例目から 4500m  162 例目、川南町、肉用牛繁殖 8 頭、1 頭 PCR+、  129 例目から 250m  161 例目、川南町、肉用牛繁殖 231 頭、3 頭 PCR+、  111 例目から 700m  160 例目、川南町、養豚 690 頭、1 頭 PCR+、89 例  目から 400m</p>	
2010.5.20	<p>159 例目、川南町、養豚 146 頭、1 頭 PCR+、135 例  目から 450m  158 例目、高鍋町、肉用牛肥育 1050 頭、PCR+、143  例目から 200m  157 例目、高鍋町、肉用牛肥育 589 頭、3 頭 PCR+、  143 例目から 200m  156 例目、川南町、養豚 307 頭、1 頭 PCR+、103 例  目から 100m  155 例目、川南町、養豚 2623 頭、3 頭 PCR+、107  例目から 300m  154 例目、都農町、肉用牛繁殖 16 頭、3 頭 PCR+、  108 例目から 1000m  153 例目、都農町、肉用牛繁殖 6 頭、1 頭 PCR+、  136 例目から 5000m  152 例目、川南町、肉用牛繁殖 38 頭、1 頭 PCR+、  123 例目から 100m  151 例目、川南町、肉用牛繁殖 49 頭、5 頭 PCR+、  87 例目から 100m  150 例目、川南町、肉用牛繁殖 64 頭、2 頭 PCR+、  17 例目から 100m  149 例目、川南町、肉用牛繁殖 42 頭、2 頭 PCR+、  93 例目から 100m  148 例目、川南町、肉用牛繁殖 7 頭、1 頭 PCR+、14  例目から 200m  147 例目、川南町、肉用牛繁殖 55 頭、2 頭 PCR+、  117 例目から 600m</p>	
2010.5.19	<p>現下の口蹄疫の発生状況に鑑み、独立行政法人 農  業・食品産業技術総合研究機構に対して、口蹄疫の  防疫対応に関し、緊急時の大臣要請(中期計画に基  づく研究よりも本件対応を優先させる)を行った  (<a href="http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/pdf/100519-01.pdf">http://www.s.affrc.go.jp/docs/press/pdf/100519-01.pdf</a>)  146 例目、新富町、肉用牛一貫 461 頭、3 頭 PCR+、  131 例目から 3000m  145 例目、川南町、養豚 892 頭、1 頭 PCR+、125 例  目から 400m  144 例目、高鍋町、肉用牛繁殖 1316 頭、3 頭 PCR  +、130 例目から 4000m  143 例目、高鍋町、肉用牛一貫 1521 頭、3 頭 PCR  +、130 例目から 1500m  142 例目、川南町、養豚 513 頭、2 頭 PCR+、90 例  目から 100m  141 例目、新富町、肉用牛肥育 800 頭、2 頭 PCR+、  131 例目から 2500m  140 例目、川南町、養豚 341 頭、3 頭 PCR+、112 例  目から 1000m  139 例目、川南町、養豚 782 頭、3 頭 PCR+、87 例  目から 100m  138 例目、都農町、肉用牛肥育 135 頭、3 頭 PCR+、  72 例目から 250m</p>	

	<p>137 例目、川南町、肉用牛繁殖 10 頭、1 頭 PCR+、57 例目から 400m</p> <p>136 例目、都農町、肉用牛繁殖 40 頭、2 頭 PCR+、108 例目から 2000m</p> <p>135 例目、川南町、肉用牛繁殖 92 頭、1 頭 PCR+、73 例目から 300m</p> <p>134 例目、川南町、肉用牛繁殖 16 頭、1 頭 PCR+、84 例目から 250m</p> <p>133 例目、川南町、肉用牛繁殖 49 頭、3 頭 PCR+、125 例目から 300m</p> <p>132 例目、川南町、肉用牛繁殖 76 頭、1 頭 PCR+、113 例目から 200m</p>	
2010.5.18	<p>131 例目、新富町、肉用牛繁殖 243 頭、2 頭 PCR+、119 例目から 4000m</p> <p>130 例目、高鍋町、肉用牛肥育 247 頭、3 頭 PCR+、119 例目から 2500m</p> <p>129 例目、川南町、養豚 1947 頭、1 頭 PCR+、125 例目から 1000m</p> <p>128 例目、川南町、養豚 1509 頭、2 頭 PCR+、122 例目から 1500m</p> <p>127 例目、川南町、肉用牛繁殖 41 頭、3 頭 PCR+、110 例目から 150m</p> <p>126 例目、川南町、養豚 743 頭、3 頭 PCR+、100 例目から 1500m</p> <p>125 例目、川南町、養豚 8068 頭、3 頭 PCR+、102 例目から 550m</p> <p>124 例目、高鍋町、養豚 3056 頭、1 頭 PCR+、101 例目から 1500m</p> <p>123 例目、川南町、肉用牛繁殖 124 頭、1 頭 PCR+、102 例目から 800m</p> <p>122 例目、川南町、養豚 8617 頭、2 頭 PCR+、102 例目から 1000m</p> <p>121 例目、川南町、肉用牛繁殖 36 頭、1 頭 PCR+、102 例目から 950m</p> <p>120 例目、川南町、養豚 445 頭、3 頭 PCR+、85 例目から 1000m</p> <p>119 例目、新富町、酪農 22 頭、5 頭 PCR+、101 例目から 8000m</p> <p>118 例目、川南町、養豚 5488 頭、2 頭 PCR+、73 例目から 150m</p> <p>117 例目、川南町、肉用牛繁殖 41 頭、1 頭 PCR+、110 例目から 750m</p> <p>116 例目、川南町、養豚 1227 頭、1 頭 PCR+、66 例目から 800m</p> <p>115 例目、川南町、肉用牛繁殖 108 頭、1 頭 PCR+、66 例目から 2500m</p> <p>114 例目、川南町、肉用牛繁殖 37 頭、1 頭 PCR+、84 例目から 850m</p> <p>113 例目、川南町、肉用牛繁殖 15 頭、1 頭 PCR+、102 例目から 250m</p> <p>112 例目、川南町、肉用牛繁殖 63 頭、3 頭 PCR+、111 目から 1000m</p>	
2010.5.16	<p>111 例目、川南町、酪農・肉用牛 220 頭、2 頭 PCR+、101 例目から 950m</p> <p>110 例目、川南町、肉用牛繁殖 32 頭、1 頭 PCR+、69 例目から 100m</p> <p>109 例目、川南町、養豚 1112 頭、2 頭 PCR+、74 例目から 100m</p>	

	<p>108 例目、川南町、肉用牛繁殖 9 頭、1 頭 PCR+、87 例目から 1500m</p> <p>107 例目、川南町、肉用牛繁殖 53 頭、1 頭 PCR+、74 例目から 100m</p> <p>106 例目、川南町、養豚 594 頭、2 頭 PCR+、74 例目から 100m</p> <p>105 例目、川南町、肉用牛繁殖 15 頭、2 頭 PCR+、33 例目から 300m</p> <p>104 例目、川南町、肉用牛繁殖 14 頭、2 頭 PCR+、77 例目から 400m</p> <p>103 例目、川南町、養豚 1211 頭、1 頭 PCR+、5 例目から 200m</p> <p>102 例目、川南町、肉用牛繁殖 52 頭、1 頭 PCR+、73 例目から 1500m</p> <p>101 例目、川南町、肉用牛肥育 308 頭、5 頭 PCR+、73 例目から 2000m</p> <p>100 例目、川南町、肉用牛肥育 270 頭、2 頭 PCR+、73 例目から 850m</p> <p>99 例目、川南町、肉用牛繁殖 26 頭、3 頭 PCR+、49 例目から 200m</p> <p>98 例目、川南町、肉用牛繁殖 7 頭、1 頭 PCR+、20 例目から 100m</p> <p>97 例目、川南町、肉用牛繁殖 37 頭、2 頭 PCR+、65 例目から 350m</p> <p>96 例目、川南町、肉用牛繁殖 16 頭、2 頭 PCR+、27 例目から 50m</p> <p>95 例目、川南町、酪農・肉用牛複合 148 頭、1 頭 PCR+、15 例目から 200m</p> <p>94 例目、川南町、養豚 941 頭、2 頭 PCR+、12 例目から 300m</p> <p>93 例目、川南町、肉用牛繁殖 33 頭、3 頭 PCR+、37 例目から 250m</p> <p>92 例目、川南町、肉用牛繁殖 28 頭、3 頭 PCR+、80 例目から 200m</p>	
2010.5.14	<p>91 例目、川南町、肉用牛繁殖 5 頭、2 頭 PCR+、86 例目から 100m</p> <p>90 例目、川南町、肉用牛繁殖 13 頭、3 頭 PCR+、82 例目から 250m</p> <p>89 例目、川南町、肉用牛繁殖 30 頭、1 頭 PCR+、82 例目から 200m</p> <p>88 例目、川南町、肉用牛繁殖 35 頭、1 頭 PCR+、45 例目から 250m</p> <p>87 例目、川南町、肉用牛繁殖 26 頭、1 頭 PCR+、54 例目から 400m</p>	
2010.5.13	<p>86 例目、川南町、肉用牛繁殖 9 頭、1 頭 PCR+、44 例目から 200m</p> <p>85 例目、川南町、肉用牛繁殖 76 頭、2 頭 PCR+、49 例目から 350m</p> <p>84 例目、川南町、肉用牛繁殖 36 頭、2 頭 PCR+、52 例目から 800m</p> <p>83 例目、えびの市、肉用牛繁殖 46 頭、3 頭 PCR+、22 例目から 1000m</p> <p>82 例目、川南町、養豚 740 頭、1 頭 PCR+、37 例目から 300m</p> <p>81 例目、川南町、養豚 205 頭、2 頭 PCR+、31 例目から 1000m</p> <p>80 例目、川南町、養豚 180 頭、3 頭 PCR+、44 例目から 400m</p>	



	<p>79 例目、川南町、肉用牛繁殖 9 頭、1 頭 PCR+、42 例目から 500m</p> <p>78 例目、川南町、酪農・肉用牛 107 頭、2 頭 PCR+、50 例目から 300m</p> <p>77 例目、川南町、肉用牛繁殖 49 頭、1 頭 PCR+、57 例目から 600m</p> <p>福之國、勝平正、忠富士、秀菊安、美徳國、安重守を移動</p>	
2010.5.12	<p>76 例目、川南町、肉用牛繁殖 50 頭、1 頭 PCR+、2 例目から 400m</p> <p>75 例目、川南町、養豚 156 頭、3 頭 PCR+、13 例目から 600m</p> <p>74 例目、川南町、養豚 1098 頭、1 頭 PCR+、54 例目から 400m</p> <p>73 例目、川南町、肉用牛肥育 288 頭、2 頭 PCR+、15 例目から 2000m</p> <p>72 例目、都農町、肉用牛繁殖 12 頭、1 頭 PCR+、48 例目から 500m</p>	
2010.5.11	<p>71 例目、川南町、酪農 114 頭、1 頭 PCR+、34 例目から 50m</p> <p>70 例目、川南町、養豚 153 頭、1 頭 PCR+、46 例目から 300m</p> <p>69 例目、川南町、肉用牛肥育 20 頭、1 頭 PCR+、17 例目から 100m</p>	マカオ、日本からの牛肉輸入再開
2010.5.10	<p>68 例目、えびの市、肉用牛肥育 18 頭、1 頭 PCR+、22 例目から 500m</p> <p>67 例目、川南町、養豚 2820 頭、3 頭 PCR+、20 例目から 50m</p> <p>66 例目、川南町、肉用牛肥育 645 頭、3 頭 PCR+、15 例目から 1500m</p> <p>65 例目、川南町、酪農 49 頭、1 頭 PCR+、15 例目から 900m</p> <p>64 例目、川南町、肉用牛繁殖 50 頭、1 頭 PCR+、10 例目から 400m</p> <p>63 例目、川南町、肉用牛肥育 100 頭、3 頭 PCR+、49 例目から 300m</p> <p>62 例目、川南町、肉用牛繁殖 15 頭、4 頭 PCR+、31 例目から 200m</p> <p>61 例目、川南町、肉用牛繁殖 9 頭、1 頭 PCR+、36 例目から 200m</p> <p>60 例目、川南町、養豚 7903 頭、1 頭 PCR+、8 例目から 700m</p> <p>59 例目、川南町、肉用牛繁殖 16 頭、2 頭 PCR+、21 例目から 50m</p> <p>58 例目、川南町、肉用牛肥育 100 頭、2 頭 PCR+、46 例目から 200m</p> <p>57 例目、川南町、養豚 791 頭、2 頭 PCR+、51 例目から 800m</p>	香港、本日、5/10 からの日本豚肉輸入停止を、条件付きで、輸入再開(移動制限・搬出制限圏外で生産された豚肉)
2010.5.9	<p>56 例目、川南町、肉用牛繁殖 4 頭、1 頭 PCR+、33 例目から 450m</p> <p>55 例目、川南町、肉用牛繁殖 15 頭、3 頭 PCR+、35 例目から 200m</p> <p>54 例目、川南町、酪農 126 頭、2 頭 PCR+、23 例目から 500m</p> <p>53 例目、川南町、肉用牛肥育 97 頭、3 頭 PCR+、8 例目から 50m</p> <p>52 例目、川南町、肉用牛繁殖 17 頭、1 頭 PCR+、42</p>	



	24 例目、川南町、養豚 687 頭、3 頭 PCR+、20 例目から 100m	
2010.5.5	23 例目、川南町、養豚 4,434 頭、3 頭 PCR+、13 例目から 600m 22 例目、えびの市、養豚 320 頭、3 頭 PCR+、9 例目から 1000m 21 例目、川南町、養豚 679 頭、2 頭 PCR+、14 例目から 400m 20 例目、川南町、養豚 780 頭、3 頭 PCR+、16 例目から 200m	
2010.5.4	5~8 例目、O 型と判明 19 例目、川南町、養豚 3,010 頭、3 頭 PCR+、10 例目から 1000m 18 例目、川南町、養豚 15,747 頭、3 頭 PCR+、16 例目から 600m	
2010.5.3	17 例目、川南町、肉用牛繁殖 37 頭、2 頭 PCR+、2 例目から 5km 16 例目、川南町、肉用牛繁殖 4 頭、2 頭 PCR+、10 例目から 600m	
2010.5.2	15 例目、川南町、肥育牛 424 頭、3 頭 PCR+、1 例目から 8000m 14 例目、川南町、養豚 299 頭、1 頭 PCR+、1 例目から 6500m 2~4 例目、O 型と判明(ELISA) 1 例目から分離されたウイルスは、アジアで確認されている口蹄疫ウイルスと近縁と判明	
2010.5.1	13 例目、川南町、養豚 3882 頭、1 頭 PCR+、10 例目から 200m	
2010.4.30	12 例目、川南町、養豚 1429 頭、4 頭 PCR+、2 例目から 1000m	香港、4/20 からの日本牛肉輸入停止を、条件付きで、輸入許可(国際防疫上、信じがたい措置である。日本の家畜伝染病の防疫に対する香港自治政府の厚い信頼が伺える。未吉考)
2010.4.29	第 1 回口蹄疫疫学調査チームによる現地調査および検討会 11 例目、川南町、酪農 50 頭、3 検体(2 頭分)PCR+、2 例目から 400m	
2010.4.28	10 例目、川南町、畜試、豚 486 頭、5 頭口蹄疫疑い(PCR+)、2-5 例目から 3000m 9 例目、えびの市、肉用肥育牛 275 頭、4 頭口蹄疫疑い(PCR+)、1 例目から 70km 8 例目、川南町、肉用肥育牛 1,019 頭、5 頭口蹄疫疑い(PCR+)、2 例目から 2000m	
2010.4.24	7 例目、川南町、肉用肥育牛 725 頭、4 頭口蹄疫疑い(PCR+)、2 例目から 100m	
2010.4.23	6 例目、都農町、水牛 42 頭、豚 2 頭、1 頭口蹄疫疑い(PCR+)1 例目から 600m 5 例目、川南町、肉用牛一貫、75 頭、1 頭口蹄疫疑い(PCR+)、4 例目から 100m 1 例目、口蹄疫(O 型)と判明(ELISA 検査、動物衛生研究所)	
2010.4.22	4 例目、宮崎県、肉用繁殖農場、65 頭、2 頭口蹄疫疑い(PCR+)、2 例目から 200m 3 例目、宮崎県、肉用肥育農場、118 頭、3 頭口蹄疫疑い(PCR+)、2 例目から 400m	

2010.4.21	2 例目、宮崎県、酪農・肉用農場、65 頭、口蹄疫疑い(PCR+)、1 例目から 3000m	
2010.4.20	口蹄疫 1 例目、宮崎県、繁殖牛農場、3 頭口蹄疫疑い(PCR+)	韓国、中部、口蹄疫、豚で発生。
2010.4.9		韓国、仁川広域市の肉牛農家(180 飼育)で口蹄疫(O 型)発生
2010.1.7	山形県内の養豚場の豚が新型インフルエンザウイルス感染確認。同養豚場豚の移動自粛要請。陰性豚のみ移動させる。	韓国において口蹄疫(A 型)発生。京畿道抱川(ポチョン)市(ソウル北東約30km)酪農家、185頭飼育、韓国では口蹄疫ワクチン接種は禁止。当初、農場で使用できる簡易キット「Penside Test」を使用した。「Penside Test」とは口蹄疫ウイルス抗原(綿棒と組織サンプル)の検出検査キットである。農場で検査可能。口蹄疫の全 7 血清の臨床サンプルの直接検査である。